

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800034	事業の開始年月日	2014年2月22日	
		指定年月日	2014年1月1日	
法人名	株式会社ジェイバック			
事業所名	グループホームもも太郎さん梶賀 ユニット：1階			
所在地	(〒 981-1523 ) 宮城県角田市梶賀字西128-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族部屋があり、(夫婦・親子・兄弟)一緒に生活できます 看護師がおり日々の健康管理ができ、安心して生活(相談)できます 笑い声が聞かれる明るく楽しいホームです</p>
--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年1月17日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の理念】

法人の運営理念「自由を尊重する」「家族の絆を大切にする」を掲げている。

## 【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は1999年に設立され、宮城・福島・山形県でグループホーム、小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホーム、訪問介護などの事業所を運営している。グループホームもも太郎さん(梶賀)は、角田市中心部をとおり国道349号線沿いに広がる住宅地の一画にあり、近隣にある歯科医院や理容店と協力関係を築いている。事業所は開設して8年になり、2階建て造りで各室にトイレが備え付けられている。また、浴室やトイレを備え付けた家族部屋が各ユニットに2部屋あり、夫婦で入居することができる。

## 【事業所の優れている点・工夫点】

運営理念の一つ「自由を尊重する」を念頭にグループホームは家庭の延長であるべきとの考えから、利用者の意思を第一に考え、本人が思い思いにやりたいことをして過ごす時間を大切に支援している。事業所内には鉢植えの花が並べられたり、絵が飾られ、利用者の歌声が聞こえ、明るい雰囲気である。コロナ禍で、以前取組んでいた地域との交流や家族との交流がなかなか思うようにできない中、運営推進会議、外出支援、他事業所との連携など、工夫して継続することを模索している。この事業所で働き始めてから資格取得する職員もおり、「介護とは、福祉とは」の基本を伝えることを重視しながら取組み、資格取得にも経費援助などの支援を行い、キャリアアップを後押ししている。看護師の常勤職員がおり、利用者の健康管理の他、職員からの医療的ケアの相談にも応じている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームもも太郎さん梶賀
ユニット名	1階

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(梶賀)）「ユニット名:1階」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を全員で話し合い、理解を深めている。 毎月ミーティングを開催し確認を行っている。	法人の運営理念を玄関やホールに掲示している。職員は理念を念頭に利用者が「自由に過ごす」ことを重視し、自室で編み物する人、音楽を聴く人、一人ひとりが「したいこと」「やりたいこと」をして過ごせるように支援している。常に理念を確認しながら話し合いをし、ケアプランに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策から利用者の屋外散歩等、行っていないが、職員は地域住民と顔を合わせた際は挨拶を行っている。	町内会には加入していないが、コロナ禍前は町内会のイベントに参加したり、避難訓練時には地域住民に声掛けし協力を仰ぐなど、交流を行っていた。現在は職員が地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人達の生活の場であることは理解されているが、コロナ化のために貢献は出来ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ化により事業所開催の実施なし。 運営報告書を作成し行政へ提出している。	コロナ禍前は利用者、家族、区長、民生委員、地域包括職員、市職員、事業所職員が参加して2ヶ月に1回開催していた。今年度は事業所職員のみで2回開催し、その結果を行政に報告しているが、市担当職員からの意見・アドバイスはなかった。	運営推進会議を文書開催し報告する際は行政だけでなく、地域密着型事業所として区長や民生委員にも報告し、意見や情報交換を行いサービス向上に活かせる取組みが行えるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修会に参加している。 入居状況等を伝え、又相談案件の依頼を行っている。	市から研修の案内があり参加している。コロナワクチン接種の予約や生活保護世帯の入居について相談している。市から利用料助成の仕組みがある。また、防災協定を結び、事業所が「福祉避難場所」に指定されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて、身体拘束委員会を設置し委員会を通じて職員全員が周知している。 利用者の状態を踏まえ、施錠する時間帯があるが都度職員間で情報を共有し対応しているが、今後の課題である。	「身体拘束適正化等のための指針」を作成し、職員に周知している。「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1回開催しており、身近な事例をテーマにし検討し、議事録を職員間で回覧している。また、年1回研修を行っている。玄関は防犯上、19時から6時まで施錠している。建物前が国道で交通量が多いため、日中入浴支援中などで職員体制が手薄な時に玄関を施錠することがあるが、できるだけしないように努めている。外に出たいと希望する利用者には、一緒に散歩するなど、気分転換を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に教育委員が主体となり研修を行っている。 事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。虐待防止に関しても職員全員が周知して業務に取り組んでいる。	年1回、教育委員が中心となり研修を行っている。身近な事例をテーマに取り上げ、虐待に繋がる状況や対応について、職員が理解できるように研修を行っている。職員のストレスが虐待に繋がるという認識から、管理者は職員が相談しやすいように心がけ、法人も職員の悩みや課題を解決するように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束同様教育委員が主体となり研修を行っている。 新人職員もおり成年後見制度について理解を深めるように話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、都度質疑を入れながら説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から聞き取った要望を職員間で情報共有し、ケアに反映させている。又、進捗の状況などを家族へ伝え、意向確認をしている。	年1回、家族会を開催していたが、今は開催できていない。家族が日用品などを届けに来た時に話を聞いて、コミュニケーションを図っている。担当職員が写真入りの「近況報告」を作成し、家族などからは対面で会うことが難しい中、様子を知ることができると喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見を聞いている。年間行事の他にも職員からの要望でその時期に合った行事をしている。気兼ねなく話が出来る雰囲気作りを心がけている。	月1回のミーティングで、職員から意見を聞いている。職員の意見を検討し、行事食を充実させた。毎日の申し送りを両ユニットで一緒に行ない、職員全体で情報共有を図っている。管理者は日常的に職員から話を聞くように努め、職員が資格取得をする際は、シフト調整や経費援助などの支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りの一つとして職員個々の意向が反映できるよう確認し勤務表を作成している。勤続祝金の制度があり、各自の向上心をもてるようにしている。又、希望休や有給取得制度があり、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受けさせて職員の質の向上に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ感染対策のために直接的な交流が出来ていない。	同法人内でリモートでの研修や会議を行い職員間で情報交換し、職員の交換研修を計画している。市内の他事業所とは直接訪問して情報交換することが多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を傾聴するように努めている。又、要望を抽出できない場合は、家族へ意向を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学に来られた時から要望を聞き良い環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が困っている、必要としている事項を抽出し必要な支援を構築するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアに入る際は必ず声がけを行い、意向の確認を行っている。利用者同士の会話など過ごされている状況を観察している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「家族の絆」があるように本人・家族を大切にしている。コロナ感染対策として、面談を控えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナの為に行なえないが親戚や友人等が面会に来られた時にはゆっくり話ができるように対応し支援に努めている。居室に写真や馴染みの有る物を設置して居室環境に努めている。	コロナ禍で面会が難しいため、電話や手紙でのやり取りを支援している。携帯電話で家族と会話を楽しむ人もいる。面会をする際は窓越しで行い、晴れ着のひ孫の姿を見ることができ喜ばれ、写真を飾っている人もいる。近所の馴染みの理容師が訪問理容に訪れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り、利用者同士で過ごせる場などのきっかけ作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される方が多いが、報告が寄せられた際は情報を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ本人様の希望に沿った暮らしが出来るように努めている。 困難な場合は話しをして納得して頂けるようにしている。	入居前の生活歴を把握し、本人の意向を第一にしながら、好きな歌や編み物などが続けられ、自分のリズムで生活ができるように支援している。意思表示が難しい人は、傍で声のかけ方を工夫しながら思いをくみ取るように取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、その利用者に合ったことをしてもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで過ごしてもらう。 役割を持って頂き、いきいきとした生活が出来るような支援に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら作成している。 ミーティング時にモニタリングの状態を聞き、ケアプランの変更の必要があれば変更している。	毎月のミーティング時にモニタリングを行い、3ヶ月に1回介護計画を見直している。モニタリング時に職員からの意見を聞き、医師や看護師からの意見も反映させている。家族からは面会時に意見を聞き、見直した計画は家族に送付し確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に書き、情報を共有し、ミーティング等で職員同士で話し合いケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じサービスの内容を変える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんを利用しているがコロナの為に施設に訪問してもらっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診。 月2回の訪問診療（2グループに分かれているので4回来られる）	協力医療機関がかかりつけ医の人は月2回の訪問診療を受けている。それ以外のかかりつけ医や専門医への受診は、家族付き添いを基本としている。その際は、文書や口頭で利用者の状態を情報提供している。常勤の看護師の職員が、利用者の健康管理の他、職員からの医療に関する質問や医療的ケアについて、相談に応じている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談・報告し適切な受診や看護をうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員と情報の交換・相談を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書によって説明している。 看取り期対応は未実施である。	入居時に「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を家族に説明している。地域に24時間対応の医師がおらず、看取りは行なっていない。重度化した時は医師に相談し、口からの食事ができなくなったときには今後の対応について家族と話合っている。介護度が進むと特養に移る人も多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練、定期的に行っている。（講習会に参加）		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルをもとに地域の方々と避難訓練（夜間想定含む）を年2回実施。 火災報知器等の定期点検、非常用飲料・備品備蓄の点検。 洪水時の避難訓練今年10月行った。	洪水・地震・火災のマニュアルを作成し、年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施している。その他に、今年度は水害想定での避難訓練を行った。行政と防災協定を結び、「高齢者の避難所」になっている。感染予防対策として職員の体調管理に力を入れており、必要に応じて抗原検査を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアに入る前には必ず声がけを行い、居室におられる際はノックをして訪室している。～さん、と声かけの統一している。	接遇・プライバシー保護の研修を年に1回実施している。利用者へは「さん」をつけて呼んでいる。排泄介助はさりげなくトイレに誘うなどして対応している。できるだけゆっくりはっきり、その人がわかりやすいように声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる声掛けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に確認しながら対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、入浴時にはどれが良いか選んでもらう。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・後片付け、出来る利用者にはお手伝いしてもらおう。 利用者と職員同じテーブルについて見守り行いながら楽しく安全に食事をする。	献立は職員が交代で作成し、調理も行っている。食材は宅配を利用する他、買い出し専門の職員がいる。バランスの取れた食事を心がけ、行事や誕生日には普段より豪華なメニューやおやつを工夫し楽しんでいる。利用者はテーブル拭きやお盆拭きなど、できることに参加している。現在、コロナ感染リスクを考慮して、職員と一緒に食事をしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個人ケースに記入し、把握し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事に、一人1人口腔ケアを行い夕食後は、入れ歯を洗浄している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。紙パンツから布パンツに変更。排泄パターンを知り、排泄に失敗しないように、声掛けをしてトイレに行ってもらっている。	居室にトイレが付いている。共有トイレの表示はわかりやすく、見当識に配慮されている。排泄パターンを把握しタイミングを見て声かけしている取組みで、紙パンツから布パンツになった人もいる。転倒リスクが高い人にはセンサーを使用している。便秘予防に、繊維の多い食事や乳製品を取入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く、繊維の多い物を食す。お茶の時間には足踏み体操を行っている。看護師により下剤服用管理行う。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、入浴の声掛けを行う。希望時間に応じられるようにしている。	1日おきの入浴が基本であるが、少なくとも週2回は入浴できるように声かけしている。湯は一人ひとり入れ替え、好みの入浴剤を使い楽しむ人もいる。入浴拒否の人には声かけを工夫して清潔保持に努めている。脱衣所や浴室に暖房を設置し、温度変化に気をつけて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足にむくみがある場合には、日中居室で休むように声掛け行う。就寝時も本人に聞きながら就寝の介助行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を確認しながら行っている。異変等がある時は看護師に相談し、その都度対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、調理、後片付け、編み物、カラオケ、読書、役割、趣味を楽しんでいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策のために日常的な外出はできていない。	車いす対応の車がないこともあり、全員で外出する機会が少ない。コロナ禍以前は実家の周りをドライブした人もいた。建物の周りを散歩しながら気分転換をしたり、運動不足解消に廊下を往復する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金・貴重品は持参していない。必要な物は随時、家族に電話し持参してもらう。来られない時は会社で立替を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時にはこちらからかける。手紙が来た時にはすぐに手渡ししている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・食堂等、季節感を感じられるような物を取り入れている。換気を行い、温度・湿度の調整を行う。	廊下やホールには職員の手作りカレンダーや季節毎の飾り物、行事の写真等が飾られ、日々の思い出や季節を感じることができる。ホールの出窓には花がたくさん飾っており、日差しも差し込んで明るい雰囲気になっている。職員が温・湿度の管理をしており、時間を決めて換気したり空気清浄機を設置している。廊下にはソファがあり利用者は好きな場所で休むことができる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで皆さんとお話ししたり、居室にて気の合った利用者と楽しくお話しをしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたカレンダーや時計を持ってきている。 家族も宿泊できる。 馴染みの物や家族の写真を置いて居心地良くしている。	居室にはトイレ、洗面台、エアコン、テレビ、クローゼット、ベッド、デスクが備え付けられている。部屋が広く、利用者は孫の写真などを飾り、読書や編み物など、好きなことをして過ごしている。清掃と温・湿度管理は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に確認、声掛けを行いながら自分で出来ることはしてもらう。 本人様がわかるように居室には、一人1人名前を付けている。		

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800034	事業の開始年月日	2014年2月22日	
		指定年月日	2014年1月1日	
法人名	株式会社ジェイバック			
事業所名	グループホームもも太郎さん梶賀 ユニット：2階			
所在地	(〒 981-1523 ) 宮城県角田市梶賀字西128-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族部屋があり、(夫婦・親子・兄弟)一緒に生活できます。  
看護師がおり日々の健康管理ができます。安心して生活(相談)できます。  
笑い声が聞かれる明るく楽しいホームです。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年1月17日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の理念】

法人の運営理念「自由を尊重する」「家族の絆を大切にする」を掲げている。

## 【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は1999年に設立され、宮城・福島・山形県でグループホーム、小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホーム、訪問介護などの事業所を運営している。グループホームもも太郎さん(梶賀)は、角田市中心部をとおり国道349号線沿いに広がる住宅地の一画にあり、近隣にある歯科医院や理容店と協力関係を築いている。事業所は開設して8年になり、2階建て造りで各室にトイレが備え付けられている。また、浴室やトイレを備え付けた家族部屋が各ユニットに2部屋あり、夫婦で入居することができる。

## 【事業所の優れている点・工夫点】

運営理念の一つ「自由を尊重する」を念頭にグループホームは家庭の延長であるべきとの考えから、利用者の意思を第一に考え、本人が思い思いにやりたいことをして過ごす時間を大切に支援している。事業所内には鉢植えの花が並べられたり、絵が飾られ、利用者の歌声が聞こえ、明るい雰囲気である。コロナ禍で、以前取組んでいた地域との交流や家族との交流がなかなか思うようにできない中、運営推進会議、外出支援、他事業所との連携など、工夫して継続することを模索している。この事業所で働き始めてから資格取得する職員もおり、「介護とは、福祉とは」の基本を伝えることを重視しながら取組み、資格取得にも経費援助などの支援を行い、キャリアアップを後押ししている。看護師の常勤職員がおり、利用者の健康管理の他、職員からの医療的ケアの相談にも応じている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームもも太郎さん梶賀
ユニット名	2階

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の
	2. 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある
	2. 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と
	2. 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	1. ほぼ毎日のように
	2. 数日に1回程度ある
	3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1. 大いに増えている
	2. 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が
	2. 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(梶賀)）「ユニット名:2階」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を全員で話し合い、理解を深めている。毎月のミーティングを行い確認を行っている。	法人の運営理念を玄関やホールに掲示している。職員は理念を念頭に利用者が「自由に過ごす」ことを重視し、自室で編み物する人、音楽を聴く人、一人ひとりが「したいこと」「やりたいこと」をして過ごせるように支援している。常に理念を確認しながら話し合いをし、ケアプランに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策から利用者の屋外散歩等、行っていないが、職員は地域住民と顔を合わせた際は挨拶を行っている。	町内会には加入していないが、コロナ禍前は町内会のイベントに参加したり、避難訓練時には地域住民に声掛けし協力を仰ぐなど、交流を行っていた。現在は職員が地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人達の生活の場であることは理解されているが、コロナ化のために貢献は出来ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ化により事業所開催の実施なし。運営報告書を作成し行政へ提出している。	コロナ禍前は利用者、家族、区長、民生委員、地域包括職員、市職員、事業所職員が参加して2ヶ月に1回開催していた。今年度は事業所職員のみで2回開催し、その結果を行政に報告しているが、市担当職員からの意見・アドバイスはなかった。	運営推進会議を文書開催し報告する際は行政だけでなく、地域密着型事業所として区長や民生委員にも報告し、意見や情報交換を行いサービス向上に活かせる取組みが行えるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修会に参加している。入居状況等を伝え、相談案件の依頼を行っている。	市から研修の案内があり参加している。コロナワクチン接種の予約や生活保護世帯の入居について相談している。市から利用料助成の仕組みがある。また、防災協定を結び、事業所が「福祉避難場所」に指定されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて、身体拘束委員会を設置し委員会を通じて職員全員が周知している。 利用者の状態を踏まえ、施錠する時間帯があるが都度職員間で情報を共有し対応しているが、今後の課題である。	「身体拘束適正化等のための指針」を作成し、職員に周知している。「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1回開催しており、身近な事例をテーマにし検討し、議事録を職員間で回覧している。また、年1回研修を行っている。玄関は防犯上、19時から6時まで施錠している。建物前が国道で交通量が多いため、日中入浴支援中などで職員体制が手薄な時に玄関を施錠することがあるが、できるだけしないように努めている。外に出たいと希望する利用者には、一緒に散歩するなど、気分転換を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に教育委員が主体となり研修を行っている。事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 虐待防止に関しても職員全員が周知して業務に取り組んでいる。	年1回、教育委員が中心となり研修を行っている。身近な事例をテーマに取り上げ、虐待に繋がる状況や対応について、職員が理解できるように研修を行っている。職員のストレスが虐待に繋がるという認識から、管理者は職員が相談しやすいように心がけ、法人も職員の悩みや課題を解決するように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束同様教育委員が主体となり研修を行っている。 新人職員もおり成年後見制度について理解を深めるように話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、都度理解して頂いているか確認し説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から聞き取った要望を職員間で情報共有し、ケアに反映させている。又、進捗の状況などを家族へ伝え、意向確認をしている。	年1回、家族会を開催していたが、今は開催できていない。家族が日用品などを届けに来た時に話を聞いて、コミュニケーションを図っている。担当職員が写真入りの「近況報告」を作成し、家族などからは対面で会うことが難しい中、様子を知ることができると喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見を聞いている。年間行事の他にも職員からの要望でその時期に合った行事をしている。気兼ねなく話ができる雰囲気作りを心がけている。	月1回のミーティングで、職員から意見を聞いている。職員の意見を検討し、行事食を充実させた。毎日の申し送りを両ユニットで一緒に行ない、職員全体で情報共有を図っている。管理者は日常的に職員から話を聞くように努め、職員が資格取得をする際は、シフト調整や経費援助などの支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場と家庭を無理なく両立できるよう勤務表を作成している。勤続祝金の制度があり、各自の向上心をもてるようにしている。希望休や有給取得制度があり、働きやすい環境作りになっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受けさせて職員の質の向上に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ感染対策のために直接的な交流が出来ていない。	同法人内でリモートでの研修や会議を行い職員間で情報交換し、職員の交換研修を計画している。市内の他事業所とは直接訪問して情報交換することが多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学に来られた時から要望を聞き良い環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の中で必要な支援は何かを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重し合い、寄り添う生活をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「家族の絆」があるように本人・家族を大切にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナの為に行なえないが親戚や友人等が面会に来られた時にはゆっくり話ができるように対応し支援に努めている。 居室に写真や馴染みの有る物を設置して居室環境に努めている。	コロナ禍で面会が難しいため、電話や手紙でのやり取りを支援している。携帯電話で家族と会話を楽しむ人もいる。面会をする際は窓越しで行い、晴れ着のひ孫の姿を見ることができ喜ばれ、写真を飾っている人もいる。近所の馴染みの理容師が訪問理容に訪れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入り、孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設にいかれた方の情報を確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ本人様の希望に沿った暮らしが出来るように努めている。 困難な場合は話しをして納得して頂けるようにしている。	入居前の生活歴を把握し、本人の意向を第一にしながら、好きな歌や編み物などが続けられ、自分のリズムで生活ができるように支援している。意思表示が難しい人は、傍で声のかけ方を工夫しながら思いをくみ取るように取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、その利用者に合ったことをしてもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで過ごしてもらう。 役割を持って頂き、いきいきした生活が出来るような支援に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら作成している。 ミーティング時にモニタリングの状態を聞き、ケアプランの変更の必要があれば変更している。	毎月のミーティング時にモニタリングを行い、3ヶ月に1回介護計画を見直している。モニタリング時に職員からの意見を聞き、医師や看護師からの意見も反映させている。家族からは面会時に意見を聞き、見直した計画は家族に送付し確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に書き、情報を共有し、ミーティング等で職員同士で話し合いケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じサービスの内容を変える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんを利用しているがコロナの為に施設に訪問してもらっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診。 月2回の訪問診療（2グループに分かれているので4回来られる）	協力医療機関がかかりつけ医の人は月2回の訪問診療を受けている。それ以外のかかりつけ医や専門医への受診は、家族付き添いを基本としている。その際は、文書や口頭で利用者の状態を情報提供している。常勤の看護師の職員が、利用者の健康管理の他、職員からの医療に関する質問や医療的ケアについて、相談に応じている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談・報告し適切な受診や看護をうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員と情報の交換・相談を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書によって説明している。 重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から話合う。 看取りはしない。	入居時に「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を家族に説明している。地域に24時間対応の医師がおらず、看取りは行っていない。重度化した時は医師に相談し、口からの食事ができなくなったときには今後の対応について家族と話合っている。介護度が進むと特養に移る人も多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練、定期的に行う。（講習会に参加）	/	
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルをもとに地域の方々と避難訓練（夜間想定含む）を年2回実施。 火災報知器等の定期点検、非常用飲料・備品備蓄の点検。 洪水時の避難訓練今年10月行った。	洪水・地震・火災のマニュアルを作成し、年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施している。その他に、今年度は水害想定での避難訓練を行った。行政と防災協定を結び、「高齢者の避難所」になっている。感染予防対策として職員の体調管理に力を入れており、必要に応じて抗原検査を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人には、「さん」づけで呼ぶ。ノックをして居室に入る。その人に合った声の高さで話す。	接遇・プライバシー保護の研修を年に1回実施している。利用者へは「さん」をつけて呼んでいる。排泄介助はさりげなくトイレに誘うなどして対応している。できるだけゆっくりはつきり、その人がわかりやすいように声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる声掛けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に確認しながら対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、入浴時にはどれが良いか選んでもらう。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・後片付け、出来る利用者にはお手伝いしてもらおう。 利用者と職員同じテーブルについて見守り行いながら楽しく安全に食事をする。	献立は職員が交代で作成し、調理も行っている。食材は宅配を利用する他、買い出し専門の職員がいる。バランスの取れた食事を心がけ、行事や誕生日には普段より豪華なメニューやおやつを工夫し楽しんでいる。利用者はテーブル拭きやお盆拭きなど、できることに参加している。現在、コロナ感染リスクを考慮して、職員と一緒に食事をしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個人ケースに記入し、把握し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事に、一人1人口腔ケアを行い夕食後は、入れ歯を洗浄している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。 紙パンツから布パンツに変更。 排泄パターンを知り、排泄に失敗しないように、声掛けをしてトイレに行ってもらっている。	居室にトイレが付いている。共有トイレの表示はわかりやすく、見当識に配慮されている。排泄パターンを把握しタイミングを見て声かけしている取組みで、紙パンツから布パンツになった人もいる。転倒リスクが高い人にはセンサーを使用している。便秘予防に、繊維の多い食事や乳製品を取入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く、繊維の多い物を食す。 お茶の時間には足踏み体操を行っている。 看護師により下剤服用管理行う。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、入浴の声掛けを行う。 希望時間に応じられるようにしている。	1日おきの入浴が基本であるが、少なくとも週2回は入浴できるように声かけしている。湯は一人ひとり入れ替え、好みの入浴剤を使い楽しむ人もいる。入浴拒否の人には声かけを工夫して清潔保持に努めている。脱衣所や浴室に暖房を設置し、温度変化に気をつけて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足にむくみがある場合には、日中居室で休むように声掛け行う。 就寝時も本人に聞きながら就寝の介助行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を確認しながら行っている。 異変等がある時は看護師に相談し、その都度対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、調理、後片付け、編み物カラオケ、読書、役割、趣味を楽しんでいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策のために日常的な外出はできていない。	車いす対応の車がないこともあり、全員で外出する機会が少ない。コロナ禍以前は実家の周りをドライブした人もいた。建物の周りを散歩しながら気分転換をしたり、運動不足解消に廊下を往復する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金・貴重品は持参していない。必要な物は随時、家族に電話し持参してもらう。来られない時は会社で立替を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時にはこちらからかける。手紙が来た時にはすぐに手渡ししている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・食堂等、季節感を感じられるような物を取り入れている。換気を行い、温度・湿度の調整を行う。	廊下やホールには職員の手作りカレンダーや季節毎の飾り物、行事の写真等が飾られ、日々の思い出や季節を感じることができる。ホールの出窓には花がたくさん飾っており、日差しも差し込んで明るい雰囲気になっている。職員が温・湿度の管理をしており、時間を決めて換気したり空気清浄機を設置している。廊下にはソファがあり利用者は好きな場所で休むことができる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで皆さんとお話ししたり、居室にて気の合った利用者と楽しくお話しをしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたカレンダーや時計を持ってきている。 家族も宿泊できる。 馴染みの物や家族の写真を置いて居心地良くしている。	居室にはトイレ、洗面台、エアコン、テレビ、クローゼット、ベッド、デスクが備え付けられている。部屋が広く、利用者は孫の写真などを飾り、読書や編み物など、好きなことをして過ごしている。清掃と温・湿度管理は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に確認、声掛け行いながら自分で出来ることはしてもらう。 本人様がわかるように居室には、一人1人名前を付けている。		